

東日本大震災から二年半が経過しました。震災・原発事故・風評被害の三重苦の中で、物心両面の郷土再建を目指す仲間がいます。

福島県倫理法人会は、〈危機的な状況だからこそ、心の拠り所となる純粹倫理の普及と実践が必要である〉との信念のもと、倫理活動を力強く推し進めてきました。

近年、特に力を入れて取り組んできたのが、いわき市倫理法人会の開設です。以前に一度諸事情により閉鎖した経緯があり、普及の困難さは役員も熟知していました。

「いわきに再び倫理の火を灯そう!」と、一丸となって普及活動を展開していた時に起こったのが東日本大震災でした。

震災から一カ月後の四月、まだ被害状況もつかめない中、丸山敏秋理事長がモーニングセミナーに入ることが決定。その報を受けて福島県倫理法人会は活動を再開しました。

また、原発による多大な被害を受けた沿岸部でも、南相馬市に拠点をおく相双倫理法人会の活動が五月から再開されました。

平成二十五年度、別府一男会長から三瓶利正会長にバトンが受け継がれました。三瓶会長は「敗戦直後、広島と長崎は国からの支援も行き届かない中で街を愛する人によって再建され、現在に至っている。私たちにもできないことはない」と語り、力強く運動を展開しました。

懸案だったいわき市倫理法人会の開設については、県役員や郡山市の役員、また、被

## 郷土愛を力に変えて 福島再生へ



災後に一時避難をしていた会員も加わって普及が推し進められ、今年五月二十四日、歓喜と共に五十社を達成しました。

さらに、倫理体験を根幹に据えて着実に仲間を増やし続けた会津、郡山、須賀川、相双もそれぞれ目標を達成。役員一丸となつての献身的な働きにより、ついに「八八八社」を積み上げ、七月二十二日に目標達成式典を開催しました。

三瓶会長は、式典の挨拶の中で、明るく燃える新生・福島県倫理法人会誕生の喜びを話すとともに、今後も「愛」をキーワードに手と手を合わせ、明るい社会建設に努力していくと熱い想いを語りました。

\*

倫理運動の創始者・丸山敏雄は、「愛」について、こう説いています。

家庭をつくり、社会をいとなみ、人の世の幸福と文化を生み出だすもとは、人の愛である。  
〔万人幸福の葉〕

我らの故郷に対する愛着、生まれた土地に対する思慕、これは善し悪し・便不便をはるかに越えて、いつまでも変わらぬ、いや年々高まっていく愛情である。

〔丸山敏雄全集〕第十一巻

普及は人との出会いです。利他の精神の発揚です。その原動力となるのは郷土愛に根ざしたリーダーシップであり、同志の絆でしょう。地域で心を一つに苦難を乗り越え、日本創生に向けて、時代を切り拓いてまいります。

絵・今谷 鉄柱